統計セミナー 2020

「統計セミナー 2020」は，2020年２月21日（金）にベルサール神保町（東京都千代田区）において開催された．昨年以前において，本セミナーは（一財）日本統計協会と（公財）統計情報研究開発センターの主催により，それぞれ別々に開催されていたが，2020年は1920年の第１回国勢調査から100周年を迎えるということで，「国勢調査100周年―社会の基盤情報として これまでも これからも―」と題して，両機関合同の主催により開催された．新型コロナウイルスの感染拡大に伴うイベント等の自粛ムードが高まる直前に開催されたこともあり，会場は百数十名の参加者で満席となった．当日のプログラムは下記のとおりである．

１．加藤久和（明治大学）「人口減少時代と社会経済の課題を考える」
２．小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）「地域人口統計の分析活用例と将来の地域人口見通し」
３．千野雅人（総務省）「なぜ我々は「国勢調査」を行うのか？」
４．阿向泰二郎（総務省統計局）「令和２年国勢調査の実施に向けて」

ウイルス感染拡大の影響は大いに心配されるところであるが，2020年の国勢調査が円滑に実施されることを願ってやまない．

（小池司朗　記）

COVID-19の世界的蔓延による人口関係学会への影響

2019年12月に中国武漢市で発生したとされる「COVID-19（新型コロナウイルス）」は，４月22日時点で日本国内を含め世界で256万人が感染し，18万人が死亡するまでに拡大している[1]．現時点で「COVID-19」による感染者数の推移や社会，経済への影響を正確に見通すことはできないが，1918～1920年にかけて世界で５億人が感染し推計で4,000万～１億人が死亡したとされる「スペイン風邪」[2]以来の歴史的な感染症の蔓延となる可能性が高い．ここでは，「COVID-19」の感染拡大を受けた国内外の人口に関連する各学会の対応について，2020年４月22日時点の状況を記録することとした（表１）．

現在，各国で感染拡大とそれに伴う医療提供水準の低下を防止するために，外出や移動の制限や自粛要請，海外渡航の制限が多く行われているが，「COVID-19」の特性が未解明であることなどから，影響の長期化も懸念されている．そのため，2020年11月に開催予定となっていたアジア人口学会のように早々に延期を決定しているケースなどもある．また，2000年代以降急速に発展してきたインターネットをはじめとするITを活用し，オンライン開催などにシフトしている学会もある．このように，「COVID-19」は社会，経済への影響のみならず，研究活動の発表の場にも影響を与えつつある．なお，最新の情報は各学会のホームページなどを参照していただきたい．

1）ジョンズ・ホプキンズ大学「Corona Virus Resource Center」(https://coronavirus.jhu.edu/)
2）浜野潔（2010）「スペイン風邪」，『現代人口辞典』，原書房，p.176